

同窓会報



愛媛大学法文学部同窓会事務局

目次

副会長挨拶	2
EHIME UNIVERSITY NEWS	3
Photograph around Campus	4
退職された教員の方々	6
卒業生から	9
赤間法文学部長・白石事務課長 インタビュー	10
現代学生の経済状況	12
同窓会 提供講座 報告	14
愛大ショップえみか	16
セ・トリアン	17
支部だより	18
同期会	20
理事会報告	21
平成22年度卒業記念祝賀会	22
パズル・編集後記	24



題字：柴田 祐昭
(文理学部人文学科史学専攻・第8回卒)
[明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・
県展審査員・毎日書道展審査会員]

表紙写真

上：正門の桜
右下：南加記念ホール
左下：総合研究棟2 前のしだれ桜

ご挨拶

同窓会活動にご理解と
ご協力をお願いします

愛媛大学法文学部同窓会副会長

小池 昭彦 (1970文経卒)



一昨年の総会で副会長に選任されました。水口会長を中心に、三役・各学科理事と会の運営に係らせていただいています。よろしくお願いいたします。

法文学部同窓会は今年、設立52年目を迎えました。本部では3年毎の総会、年3回の理事会、会報の発行（年1回）、学部への寄付科目・提供講座、名簿管理、ホームページの運営などを行っています。また、支部活動においても東京章光会（関東支部）、にきたつ会（関西支部）、広島支部、四国支部がそれぞれの会員間の交流を深めています。各地の運営に携わっている方々には、忙しいなかご協力いただきありがとうございます。

3月11日の東日本大震災以来、政治・経済ともに先の読めない状況が続いています。特に原子力発電所の行く末は気がかりです。東北地方にお住まいの方の中には、直接被災された方もいらっしゃると思います。同窓会としても復興支援を模索していきたいと考えていますので、なにかお手伝いできることがあればご連絡ください。

今後、同窓会は会員同士の懇親を図るとともに、学部・学生の支援に力を注いでいきたいと考えています。寄付科目では資金を援助し、提供講座では講師として同窓生を送り出しています。さらに就職支援の体制作りも喫緊の課題です。校友会が主催する東京や大阪への就職支援バスツアーには各支部の方が協力していますが、本部においても現役学生との交流を図り、就職や企業・職場の情報を提供できるよう検討したいと思います。

国立大学法人となってから、愛媛大学は数々の変革を成し遂げています。法文学部も今後大きく変わっていくでしょう。同窓会としても会員同士の交流はもちろん、大学や学生、卒業生を支援する力となるよう活動を充実させていきますので、会員の皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

EHIME UNIVERSITY NEWS

法文学部観光まちづくりコース(観光文化系)が 「全国大学生旅プランコンペ in 網走」で網走市長賞を受賞

法文学部人文学科観光まちづくりコース(観光文化系)2回生の重松香織さん、山口千明さん、1回生の織田加寿代さんによる学生チーム「ETH」(Ehime university, Tourism study, Humanities)が2010年度全国大学生旅プランコンペで網走市長賞を受賞し、平成22年10月18日(月)に黒木幹夫法文学部長、井口梓特命准教授とともに学長室に報告に訪れました。

「全国大学生旅プランコンペ in 網走」は、大学生による「着地型観光プラン」の企画内容を競う全国大会です。全国の大学から44チーム(約120人)が書類審査に応募した結果、「ETH」が上位5位に入選し、最終審査に出場しました。



▲柳澤学長との懇談

最終審査では、上位5チームが網走市に招待され、現地調査とともに最終プレゼンテーションを実施しました。

「ETH」は、志賀直哉の小説「網走まで」をモチーフに「続『網走まで』を巡る旅—志賀直哉の終着点」(プラン名)を企画し、旅行者に続編小説を執筆させ、小説の舞台を周遊する観光プランをプレゼンテーションし、本賞を受賞しました。

チームの代表を務めた重松さんから、旅行プランの企画内容や観光まちづくりコースの課外活動について説明があり、柳澤康信学長から、「皆さんの活動ひとつひとつが観光まちづくりコースの基礎を築いています。」と励ましの言葉をいただきました。



▲柳澤学長、黒木法文学部長を囲んでの記念撮影

「第1回愛媛大学ホームカミングデイ」を開催



▲三島高校書道部による書道パフォーマンス

平成22年11月12日(金)、13日(土)の2日間、「愛大は、あなたに会いたい」をキャッチフレーズにホームカミングデイを開催し、卒業生、教職員約200人が参加しました。

参加者相互の親睦を図ると共に、大学の最近の動向などの情報提供、転職・再就職等に際しての就職支援サービスを実施することを目的に、学生祭の日にあわせてホームカミングデイを開催しました。

ホームカミングデイ関連事業として、12日(金)には就職相談会を、13日(土)には、県立三島高校書道部による書道パフォーマンス、古今亭菊志ん氏(教育学部OB)による落語、岳人山氏(農学研究科OB)による尺八の演奏が行われました。

また、夕方から南加記念ホールで開催された記念式典では、柳澤康信学長から歓迎の挨拶と大学の近況報告が行われ、卒業生は現在の愛媛大学の状況に耳を傾けていました。

その後、大学会館に移動して懇親会が行われ、卒業生は年代を越えて、改めて交流を深めていました。



▲懇親会で皆さん交流を深めていました



▲記念式典で大学の近況を説明する柳澤学長

特別講演「足利事件報告会 ―菅家利和さんとともに」を開催



▲満員となった南加記念ホール

にインタビューする形式での講演が行なわれました。

講演では、1991年12月に栃木県警の捜査員が菅家さんのもとに訪れるところから、警察での厳しい取り調べ、DNA鑑定の結果及び自白に基づく逮捕、裁判、刑務所での生活、2009年6月に突然釈放され、2010年3月に再審無罪判決が確定するまでの様子を、その時々心理状況とともに生々しく語られました。その中でも、味方であるはずの弁護士にも疑われたことによる絶望感、服役中に無罪を信じて手紙を送ってくれた支援者への感謝、そして冤罪に追い込んだ警察、検察及び裁判所への怒りが印象的でした。

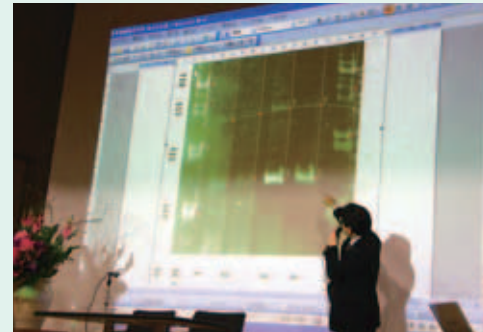
平成23年1月11日(火)、冤罪事件(足利事件)の当事者である菅家利和さん及び菅家さんの再審事件で弁護を務めた泉澤章弁護士をお招きして特別講演を開催しました。

今回の講演は、法文学部総合政策学科の開講科目「紛争と裁判Ⅱ」の一環として開催されたもので、会場となった南加記念ホールには、同科目の受講生のほか、多くの学生や教職員、一般市民の方々が集まりました。

まず始めに、「当事者が語る冤罪事件の実態」と題して、法文学部の小佐井良太准教授が菅家さん



▲小佐井准教授のインタビューに答える菅家さん(右)



▲DNA鑑定について説明する泉澤弁護士

続いて、泉澤弁護士からは、「足利事件における弁護士の役割と刑事裁判のあり方」と題し、誤判に至った原因を大きく「DNA鑑定の誤り」と「虚偽自白の存在」の2つに分け、それぞれの経過とそこにはらむ危険性についてわかりやすく講演していただきました。そして、足利事件の悲劇を繰り返さないための方策として、捜査過程の全面可視化や物証の第三者機関による科学的な検証などを挙げられました。また、裁判員制度をふまえ、我々一般市民も、冷静な目をもって捜査や裁判を見る必要があることや、人権意識を高く持つこと、そして裁判には推定無罪の原則があることについても言及されました。

最後に行なわれた質疑応答では、一般市民の方から、警察や検察に対する今の気持ちや死刑制度に対する意見などについて質問がありました。また、法律を学んでいる学生に対して望むことは、という質問に対しては、法曹界を目指す学生には、しっかり勉強するのはもちろんだが、人や事実を見る目を養い、事件の当事者の気持ちを理解できるようになって欲しいと答えられました。

菅家さんは、今後も各地で講演され、同じように冤罪事件で苦しんでいる人たちの支援をしていかれる予定です。

就職支援バスツアー東京・懇親会 ご報告(校友会から)

首都圏の就活セミナーに参加した学生と、首都圏の卒業生との懇親会が開催されました。

(共催：愛媛大学・愛媛大学校友会・各学部後援会)
 懇親会は盛況に終わりましたが、帰路に大寒波に遭い、バスが足止め。長時間の運行になり、大変だったようです。

学生みなさん、添乗された職員の皆さんお疲れさまでした。

平成23年1月15日(土) キャンパスイノベーションセンター 509

15:00~17:00 就職セミナー

16:00~17:00 校友会首都圏支部役員会

17:00~ 懇親会 開始

開会挨拶 原就職支援課長

挨拶 高崎首都圏支部顧問(校友会副会長)

乾杯 岡部サテライトオフィス東京所長

抽選会

全員集合プロジェクト紹介 岡本プロジェクト代表

学生代表挨拶 櫛部優季(法文学部)

学生代表挨拶 黒田佳奈(法文学部)

締め 阿部校友会首都圏支部副支部長



▲高崎首都圏支部顧問(校友会副会長)



▲乾杯の挨拶をされる岡部サテライト東京所長
 ◀くじ引き抽選会の様子(左)
 ▶学生代表の挨拶(右)



トピックス

水口同窓会長が愛媛弁護士会長に就任



水口 晃 愛媛弁護士会長

愛媛弁護士会には現在140人ほどの弁護士が活動しています。そのトップ、愛媛弁護士会長に法文学部同窓会長の水口晃氏が就任しました。任期は1年間。これまでも白石隆氏(第7代同窓会長)、白石喜徳氏(第10代同窓会長)、宇都宮真由美氏(現四国支部長)が就任されています。故郷・

香川県の役場に就職しながら、辞めて弁護士資格を5年かけて取得したという水口会長の弁護士としてのモットーは「声を上げた人たちを大事にする」。原爆症認定をめぐる訴訟、じん肺や過労死などの労災訴訟などを手掛けています。2011年6月15日の愛媛新聞「この人」にも紹介されました。

愛媛大学校友会結婚支援事業について

財団法人白楊会館が「白楊会館結婚相談所」として活動していました結婚相談事業が愛媛大学校友会に引き継がれ、平成23年度から会員交流事業の一つとして「愛媛大学校友会結婚支援事業」を実施することになりました。平成23年5月に、その事業を実施するため、愛媛大学校友会は「えひめ結婚支援センター」の協賛企業(団体)として登録しました。

校友会結婚支援事業の当面の主たる事業内容は、えひめ結婚支援センターの目的や事業内容を周知するとともに、「校友会結婚支

援事業会員」としての登録とえひめ結婚支援センターへのメールマガジン登録(無料)を案内し、校友会結婚支援事業会員にイベント情報等をお知らせすることとしています。

校友会結婚支援事業会員への登録手続きなどの事業の詳細については、愛媛大学校友会のホームページをご覧ください。トップページの左下に「結婚支援事業」のバナーがあります。

【愛媛大学校友会ホームページ】 <http://koyu.ehime-u.jp/>

Photograph around Campus

ハナちゃん情報



「赤間先生のブログ」
<http://d.hatena.ne.jp/akamac/>より (2011.8.2)



(2011.7.22)



太養軒 閉店!

40年間、長らく学生に愛された太養軒が平成23年5月15日に閉店となりました。

退職された教員の方々



森 孝明先生

- ① 昭和52(1977)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ ドイツ文学・文化論

私は皆さんと同じ法文学部の同窓生です。愛媛大学文理学部人文学科を昭和43年に卒業しました。専攻はドイツ語・ドイツ文学です。広島大学の大学院を出た後、日本大学工学部（福島県郡山市）のドイツ語教員として3年、島根大学で3年教え、母校の愛媛大学に赴任しました。教養部で18年教鞭を執り、組織改革で教養部が無くなる1年前の平成7年に法文学部に移りました。教養部の頃から法文には講義に来ていたので、馴染みはありました。同窓生でもありますし。

一番の思い出は、国立大学法人化の時です。あの頃、私は人文学科長だったのですが、2年目に独立法人化しました。その準備は大変なものでした。しかも法人化された後、学内措置で法文学部は2学部体制をとり、私は初代の人文系担当学部長となり、結局2期(4年)やりました。普通は評議員を経験してから学部長になるのですが、私の場合はいきなりでした。ただでさえ、学科長・学部長は激務なのに、法人化が重なり、とても忙しかったのを覚えています。

学部長の時、もう一つ人文学科の改変を行いました。それまでの教育体制をもう少し社会との繋がりを強めるために、実践的な「副専攻型プログラム」をスタートさせました。これはおそらく日本で初めての試みでしたが、まだ卒業生が出ていませんので、評価はこれからです。

この4月から放送大学愛媛学習センターの所長に就任しています。3月31日の退職後、4月3日には放送大学の卒業式と入学式があって、ゆっくりする間もありませんでした。放送大学は愛媛大学の敷地内にありますので、気軽に覗いてみてください。私の担当する公開講演会も前期2回、後期2回あります。また、同窓会の理事としても皆さんとは関わりがありますので、今後ともよろしくお願いします。



藤目節夫先生

- ① 昭和50(1975)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 地域システム論

昭和50(1975)年、徳島大学工学部の助手から愛媛大学法文学部文学科の講師として着任しました。理系から文系への華麗な転身と言いたいところですが、当初は研究理念や研究方法などの違いに戸惑うことばかりでした。赴任時の法文学部の教官数は今でも覚えています。がわずか41名、愛媛大学で最も小さな学部でした。規模は小さくても声は大きく、全学でも一目置かれていた学部だったような気がします。その後、全国初の夜間主コースなどの設置もあり、比較的短期間で100名を超える教官数の学部で成長しました。

私の研究分野は前半が交通地理学、後半が地域づくり論でしたが、いずれの分野も学問の地域への貢献という視座を忘れずに研究と教育に取り組みました。現在では「研究」「教育」と並んで「地域貢献」が大学の重要な役割とされていますが、当時としてはそのような考え方はきわめて少数派でした。ちなみに、学外の委員会委員への就任数の上限が決められている有様で、現在では考えられない状態でした。しかし私は、学生が地域に関わることは大学では学べないものを学ぶことができる、との考えのもとに、夏休みや春休みを利用して学生と色々な地域へ出かけて調査・研究を行いました。そして、地域での研究の成果を、学生自らが公的な場で発表するように指導しました。

その結果、平成19(2007)年には中四国4大学間「学生の自主的・実践的研究プロジェクト」で、平成20(2008)年には「愛媛大学Eプロジェクト」でそれぞれ最優秀賞を受賞し、学生とともに喜んだことは今となってはよい思い出の一つとなっています。近年では、地域学習の重要性が次第に認められるようになり、法文学部でも「フィールドワーク」の名を冠した実習がカリキュラムに組み込まれたのは喜ばしい限りです。

私は平成23年3月に愛媛大学を定年退職しましたが、法文学部は今後とも研究・教育に加えて地域への貢献という視座を大切に、より一層の発展をしてもらいたいと願っております。最後になりましたが、愛媛大学法文学部同窓会の今後益々のご発展と、同窓生の皆様方の今後益々のご健勝をお祈りしております。



内田九州男先生

- ① 平成4(1992)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 日本史

愛媛大学に来る前は大阪城で学芸員をしていました。大阪城は研究対象としては非常に魅力がありましたが、とにかく忙しいんです。土日を含めた週6日の勤務（後に週休2日制へ移行）でしたが、年間120万人の見学者が訪れるのでその質問対応とか、1～1.5か月に1回は4フロアの展示替え等到大忙しでした。しかも小規模の職場でしたので調査もままなりません。調査・研究の時間がほしいと常々思っていたところ、たまたま愛媛大学の研究室に空きがあり、お声がかかって採用になったというわけです。

愛媛大学では、講義と学部の仕事以外は多くの時間とエネルギーをフィールドワークに使いました。伊予三島の今村家、伊予市灘町の宮内家、宇和島の伊達家、松野町の目黒山型模型などが印象に残っています。伊達家では未整理の古文書を6年かけて学生と調査しました。古文書の解読は一人では時間がかかりすぎてなかなか進まないのですが、学生に読み方を教えて、多人数を動員します。学生にとっては大変ですが、参加すれば実力がつき、古文書整理・解読のエキスパートとして大学院に進んだ時等に役に立ちます。

宮崎県で生まれ、大学は京都、卒業後は大阪城の学芸員をしていた私が、愛媛大学を退職し、第二の人生も愛媛で送ることになった理由は、私の研究分野と関係があります。私の専門は日本の近世史・都市史ですが、江戸時代の歴史を勉強した人間は、地元志向にならざるを得ないのです。愛媛県内にも手つかずの資料がまだまだたくさんあります。

これからは城郭史・都市史・部落史・遍路史などに取り組みたいと考えていますが、特に遍路史はこれまでの研究成果をまとめ出版したいと思っています。昨年8月に病気になり入院しましたが、今はかなり回復し研究生生活には支障のないところまできました。また調査にも出かけたいと思います。まだまだやりたいことはたくさんあります。

最後になりましたが、法文学部同窓会のご発展と、同窓生の皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。



宇都宮純一先生

- ① 平成7(1995)年
- ② 法文学部総合政策学科
- ③ 憲法学

1995年4月に憲法担当教員として山形大学より愛媛大学法文学部に赴任し、2011年3月に愛媛大学を退職し、同年4月に金沢大学に転出するまで16年間お世話になりました。愛媛大学赴任時に法文学部は3学科でありましたが、1996年に学部改組で2学科となり、さらに大学院法学研究科の改組も行われ、2専攻の法文学研究科となり、文字通り組織改革の渦中に飛び込むこととなりました。

そして、2004年4月には司法制度改革の一環としての法科大学院の設立構想に基づいて、愛媛大学は香川大学と共同で連合法務研究科を設置し今日に至っております。2003年度の総合政策学科の学科長としてこの法科大学院の設立準備に関わりました。これは、藤川研策法文学部長（当時）、矢野達雄前学科長らの準備作業のあとを承けてのものでありましたが、さまざまな紆余曲折を経て、当時の小松学長の決断に基づいて、香川大学を基幹校として出発することになりました。

設置後の地方の国立大学の法科大学院を取り巻く状況は、いずれも極めて厳しいもので、連合法務研究科も例外ではなく、悪戦苦闘が続いており、それ故、偏に同窓会の皆様の暖かいご支援をお願いする次第です。

金沢大学に赴任後も同じく法科大学院の教育に携わっております。環境が変わり、人間社会の出来事を「別の観点から考える」良き機会と捉えて、研究・教育に勤しみたいと思います。

さて、金沢の街も松山と同じく城下町で、周辺に温泉街もあり、似たような風情に接して松山を思い起こしております。松山城と道後温泉を思い描きながら、愛媛大学法文学部同窓会のご発展と同窓生各位のご清祥を祈念致しております。

- ① 愛媛大学に来られた年
- ② 所属の学部学科
- ③ 研究・専門について

退職された教員の方々

- ① 愛媛大学に来られた年
- ② 所属の学部学科
- ③ 研究・専門について



松原弘宣先生

- ① 昭和53(1978)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 日本史

1978年3月下旬に大阪から岡山を経て宇高連絡船にのり、国道11号線を妻と生まれたばかりの長女とともに長時間かけて車で赴任したことを昨日のこのように覚えており、3本の架橋と高速道路の現状は隔世の感を覚えます。

愛媛大学教養部の講師として赴任した私は、現在愛大ミュージアムのある旧共通教育棟の3階の研究室に入りました。その後の全国的な教養部改組で、1996(平成8)年4月に法文学部人文学科へ移り、現在の法文本館5階に研究室を移し、2011年3月まで32年間、愛媛大学の教員として古代史研究と日本史教育に携わってきました。

この間に、『日本古代水上交通史の研究』・『古代の地方豪族』・『熟田津と古代伊予国』・『藤原純友』・『古代国家と瀬戸内海交通』・『古代瀬戸内海地域の研究』・『日本古代の交通と情報伝達』・『私と古代史研究』・『古代四国の諸様相』などを公刊し、四国の研究者として一定の役割は果たしたのだと思います。

また、愛媛大学の歴史学・日本文学関係教官とともに「資料学研究会」を立ち上げ、国内外の研究者の協力を得て、その成果を計10冊の『資料学の方法を探る』との研究報告書で発信し続け、全国的に認知されるようになったことも思い出深いことです。今後も愛媛大学法文学部が四国に於ける人文・社会科学研究と教育の拠点として発展されることを祈念する次第です。



田村憲治先生

- ① 昭和52(1977)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 日本文学



圓増治之先生

- ① 平成11(1999)年
- ② 法文学部人文学科
- ③ 倫理思想史

もう40年も前のことになります。日本全国の大学で学園紛争の嵐が吹き荒れたことがあります。東大の紛争はひとときわ激しく、入学試験が実施できなかった年もあったくらいです。安田講堂に学生たちが籠城し、これを排除するために警視庁は時計台に向けて放水を行いました。それはこれまでで最も強烈な印象を私に残した放水の光景でした。しかし、東日本大震災で破損した福島原発の冷却のための放水の光景は、私にとってそれ以上に印象的な、いやむしろ衝撃的といったほうがよいような光景でした。

この光景に代表されるように、この度の東日本大震災はまさに未曾有の衝撃を物理的にも心理的にも私たちに与えました。東京の大学では大学紛争以来はじめて卒業式を中止するところもあったと聞いております。また縮小して行ったところも多かったそうです。しかし、被災地から遠く離れた私たちの愛媛大学では、幸いにもいつもながらの卒業式風景をみる事ができました。平穏無事に卒業生たちを送り出すことができ、まさに「無事こそこれ慶事なり」の感を強くしております。

卒業生を祝福して送り出したことが、愛媛大学の教員としての私の最後の仕事となりました。この最後の仕事が無事終わり、私としても長年勤めた大学を無事退職することができました。私にとってもこれにまさる慶事はございません。大学の平穏無事な発展を祈念しております。



鈴木加人先生

- ① 昭和49(1974)年
- ② 法文学部総合政策学科
- ③ 経済法・独占禁止法



From a Graduate

卒業生
から

おたよりお待ちしております。
〒790-8577
松山市文京町3 愛媛大学法文学部内
愛媛大学法文学部同窓会
E-mail:aidai-houbun-dosokai@sings.jp



1999年卒業 相原 佳織

[文学科日本史専攻(旧姓:井上)]

2001年卒業 松本 裕実

[総合政策学科(旧姓:井上)]

2007年卒業 井上 耕介

[総合政策学科国際政策専攻]



姉弟旅行
(左から佳織さん、耕介さん、裕実さん)

佳織：兄弟3人とも愛媛大学法文学部卒業ということで何と原稿依頼が来ました！

そこで法文学部の思い出をいろいろ語ってみたいなあ、と思います。

裕実・耕介：学生時代の思い出についてとか？

佳織：そうそう。長女の私と末っ子の耕くんは8歳も違うから、大学時代もずいぶん違いがあるんじゃないかなあ。裕実とはさほど違わないかもだけれど。耕くんの大学時代は私も裕実も家を出ているのであまりわかりません……。でも耕くんの大学合格のお祝いにPS2を買ってあげたことはよく覚えています(笑)

耕介：最近 Wii もらったし(笑)。まずは最近卒業した俺からね。大学では県外の友達がたくさん出来た。ゼミのメンバーと仲がよく、皆で鍋をしたり、旅行に行ったり、飲みに行ったりしたよ。ゼミ旅行は沖縄。先生も一緒に行ったけど、これまた最高に楽しくて1番の思い出かも。あと、フィールドワークで広島へ行き、平和学。いろんな国の人とのふれあい。宿泊も外国人の人がやってる民家のようなところでこれも思い出深い。

授業のほかにバイトと、サッカー(愛媛FC)のボランティアを熱心にして、大学祭では当時JFLだった愛媛FCの選手を呼んでイベントをしたりした。

学祭以外にも愛媛FCの選手、スタッフの方を招いてトークショーみたいなことをしたりして、当時の愛媛のサッカーを盛り上げようと試みたりしたよ。



ゼミ
広島フィールドワーク
(中央が井上耕介さん)

裕実：私の思い出は、いろいろあるけど、ゼミの先生が好きだったよ。先生の部屋には黒板にメモがいっぱい。それもラテン語がびっしり。ドイツ語は1週間でマスターできるって言われたときはびっくりしたけど。難しい授業だったけれど少人数で頑張ったよ。法律の授業をたくさんとったけど、ちょうど「神戸連続児童殺傷事件(酒鬼薔薇事件)」がおこって、授業でも話した覚えがあるなあ。姉ちゃんと同じ授業もとったね。上山先生の法倫理学。毎回、いろんな事例を検討して充実してたよね。あと、私が入学した年からパソコンを購入しないといけなくなって。イントラネットで提出とか、BBSとか。今思えばなんか古い感じ。

佳織：私はまだまだワープロの時代。パソコンは図書館で使う位だったような。携帯もないしね。今は無きサークル(V・Y・S)で子供会の依頼を受けるのも自宅電話に保護者さんから掛かってきてたし。サークルと言えばBOXだけれど、今はきれいなお店になってる。変わったね。大学時代はサークルにバイトに、で不真面目な学生だった気がするけれど日本史の勉強をするのは楽しかったな。でも、真剣に取り組んでいる人たちが前にすると自分の浅学を感じてなかなか資料室には行けなかった。でも裕実と同じでゼミの先生の部屋は好きだった。好きな本に囲まれて暮らしたいと思ったきっかけかも。なので今の私の部屋は天井まである本棚5つ、小さい本棚3つ、中くらいの・・・と本に囲まれています。今でもいろんな所に旅行に行っても必ず史跡巡りはするしね。ゼミ旅行もそんなに行っていないけれど、寺〇くんがずっと毛利元就の真似をしていたのが忘れられないよ。

耕介：現在は生活協同組合コープえひめにて、生協の配達のお兄さん。「経済活動と環境問題の関連」がゼミの専攻だったので、多少はそれに関した仕事、かな？人とふれあうことがたくさん出来る仕事なので楽しいし、学びが多い。親に優しくなった(笑)

裕実：私は現在、おっぱい大好き息子を育児中。法律事務所は育児中です。弁護士が裁判所に提出する書類作成補助をしてるんだけど、もっと勉強しておけば良かったなと思う。

佳織：それは思うね。きっとみんな思うことかも。私は現在、特別支援学校の講師。中学生と関わって毎日楽しく過ごしてる。私たちが生きている社会全般に関わることを一緒に勉強していけるように頑張ってるよ。

佳織・裕実・耕介：それぞれ、毎日を丁寧に大切に生きていきたいよね。頑張ろうね。

ゼミ
史跡めぐり
(中央が相原佳織さん)



赤間法文学部長・白石事務課長 インタビュー

(総合政策系担当学部長)

インタビュー フリーアナウンサー
後藤珠希 (2006年卒)

■同窓会寄贈の記念時計について

後藤：まずは同窓会から寄贈させて頂いた50周年記念時計、この号が出る頃には早いもので丸2年になりますが、学生や教職員の方々の反応はいかがでしょうか？

赤間：定時になると小鳥のさえずりの音が鳴って、学生たちが注目していますよ。いい意味で意外と目立たないんでしょうね。僕は時計の除幕式に出席させてもらったんだけど、その時から折にふれて学生たちには“あの時計は同窓会からの寄付なんだよ！”と伝えています。



赤間道夫法文学部長

赤間：時計を身近に感じることで同窓会を意識する……ということはありませんね。

後藤：愛媛大学法文学部のホームページにも、シンボルのように時計の写真を載せて頂いて……

白石：そうなんです。学生にも馴染んできているし、よ〜く見ると時計だということがいいですね。

赤間：他大学にあるようなシンボリックな時計が前から欲しいなと思っていたので嬉しいです。

■最近の学生の様子

後藤：赤間先生は法文学部に来られて、26年になるということですが、先生から見て昔と比べて最近の学生の様子はいかがですか？

赤間：愛媛大学の学生は真面目だと言われていますが、それは引き続きありますね。他大学の方が授業を見たときに授業態度がいいと驚いていました。本当に真面目に聞いているんですが、ただ反面、大人しく目立とうとしない学生が多く、反応がもっと欲しいとの声もありますね。いろんな行事・ボランティアで「この指とまれ」と言った時に、手を挙げるのが実は男子じゃなく女子なんです。全国の大学の傾向かもしれませんが、女子学生が元気！ まず興味をもって動くのは、女子学生が多いと感じています。そして男子学生も後からついてくるかなと、全体として元気になるひとつの段階かという風に前向きに捉えています。

■最近の法文学部の景観について

後藤：白石事務課長は、医学部から4年ぶりに法文学部に帰ってこられたということですが、構内の雰囲気や景観に変化を感じることはありますか？

白石：まずは、法文学部の中庭が綺麗になりましたね。私が異動する時にちょうど改修が終わったところで成果を見な



いままでしたので、4年ぶりに帰ってきて、綺麗に整備されていて美しい桜などを見ることができました。城北キャンパス全体では南加記念ホールや愛大ミュージアム、カフェレストラン、それにカフェテリアなど様変わりをしていて、まるで浦島太郎のような気分です。これからまだまだ手を加えようかと思っています。

後藤：まだまだ綺麗になるんですね！

赤間：環境整備は大事ですね。大学では水洗トイレって当たり前ですが、シャワートイレなども前から付いています。古い講義棟などもまだ残っていますが、全体的に綺麗になりました。

■法文学部のこれからの動向について

後藤：それでは、法文学部の内部的な変化はありますか？

白石：愛媛大学では今年度からメンタルヘルスの学生支援相談室を各学部設置しました。法文学部は他学部より少し前から対応しているんですが、大学に来られないなどメンタル面が弱い学生をサポートするためにカウンセラーをおいているんです。そういった学生が増えてきたので、大学側としても、卒業させてあげたいという想いで教員も職員も対応しています。常に予約でいっぱいです。メンタル面に波があったり、リポートで訪れる学生がほとんどですので、継続がすごく大事になります。この少子化の時代、国立大学だからといって、あぐらをかいていたのでは良い学生は集まってきました。法文学部としてもアピールをする必要があるし、もっと特色を出して



白石建樹事務課長

いかないと、学部自体の存続にも問題が出てくる可能性がありますね。何より若い人達に愛媛大学に入りたいと思ってもらわないといけないと思います。そういった面でも、学生のサポートがこれから大切になってくるでしょう。

赤間：言ってみると、メンタルヘルスの学生支援相談室は学生サービスの一環とも言えます。学生の問題と言われていた時代もありましたが、きめ細やかな指導というのが大学にも必要とされています。

外から見たときにも、進路の指導なども含め、相談窓口の強化は大学選びにも影響してきます。

後藤：その他に何か大きな動向はありますか？

赤間：そうですね……法人化になって2期目ですが、学長の方針と指導のもとで文系組織を強化したいという方向に話が進んでいます。具体的に言うと、法文学部が母体となって文系学部を増やす方向です。2つの学科(総合政策学科・人文学科)が分かれて、文系組織を増やす……流動的部分もまだありますが、去年から検討に入っています。実際、学内的には、既に各学科が独立した学部という扱いにもらっています。スタッフ的にも学生数から言っても、2つの学部という風に言えますからね。同窓会にとっては対応が難しくなるかもしれませんが、今年中に一定の方針が出る予定です。

■最近の学生の就職について

後藤：最近の法文学部の学生の就職はどうですか？

赤間：全体で93.7%。全国の大学の就職内定状況とほぼ同じくらい。数字だけ見れば高いようですが、格別よくはないんです。この就職率というのは、「就職希望者のうちで」という数字で、進学者や就職を希望しない人は分母に入っていない数字なんです。それでも、就職支援課および学部の就職指導室で対応して頂いて、ここまで数字が上がってきているのは評価していいと思います。

後藤：学生は希望の職業に就けているのでしょうか？

赤間：就職支援課の話としては、今までなら大きくて有名な会社への希望が多かったんですが、なかなか厳しいということもあり、地元や、規模は小さいけれども堅実な会社を志望している学生が多いです。従って中小企業にも目を向けるような指導も行っています。大きくて有名だからその会社がいい！と希望する学生もいますが、たとえ給料が安くても社会的に意味のあるやりがいのある仕事がしたいと、志を持った学生が多いと言われています。“ソーシャルビジネス”という言葉がありますが、一方で営利を追求しながら、社会的に意味のある仕事をする……というものに学生は関心があるようです。そういった部分を、今後同窓会とも協力をしながら開拓をしたり、さらに大学でもサポートする役割が大きくなっていると感じています。法文学部は県内の出身者が多く、ふるさとの役に立ちたいと思って卒業する学生も多いです。都会志向は減ってきたかもしれませんが、地味で着実にかつ地域や社会に



貢献したいと思っている学生が以前より増えてきました。一見適当に見える学生でも話してみるとみんなよく考えていますよ。

■提供講座について

後藤：今年で5年目になる提供講座ですが、学生の反応はどうでしょうか？

赤間：実際、教え子が教壇に立つこともあり、出来るだけ授業には出るようにしましたが、やはりあのような授業は在学生に聞いてもらいたいと思うものでした。

白石：いいお話でしたよね！ タイトルだけを見てもいいのが分かる！すごく新鮮味があって、学生が聞きたいテーマがたくさんあったと思います。普段の授業ではあまり聞けませんからね。

赤間：記録として何か形で残ればいいですね！授業をした人にも、同窓会としてもこれだけやったと記録に残るし、大学側としても、もっともっと授業の宣伝をしたい。

後藤：講師の方にも楽しかったと言って頂いていますし、卒業して以来、母校に一度も来ていなかったという方もいらっしゃいます。このような機会を本当に喜んでもらっています。

■最後にひと言！

後藤：今後の同窓会に期待することはありますか？

赤間：大学にとって、非常に大きな存在です。このように密接な関係を我々としても大事にしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

白石：同窓会へのお願いとしては、OB・OGの方と、現役の学生と繋がるきっかけをもっと増やして頂きたいと思っています。人生の分岐点に立っている学生にとっては、就職の相談もできますし、その学生の進路も変わった、人生までも変わってくるかもしれません。ですので、皆さんとのネットワーク作りをお願いします。

後藤：今後ともよろしくお願い致します。今日はありがとうございました。



後藤珠希

デフレの中で下宿生の生活はもはや限界に

～生活水準は30年前のレベル。これ以上、食費は削れない？～

1か月の生活費（2010年平均値と2009年比）

■ 自宅生

アルバイトと小遣いがさらに減り、収入が減少。奨学金が収入に占める割合は初めて20%を超える。

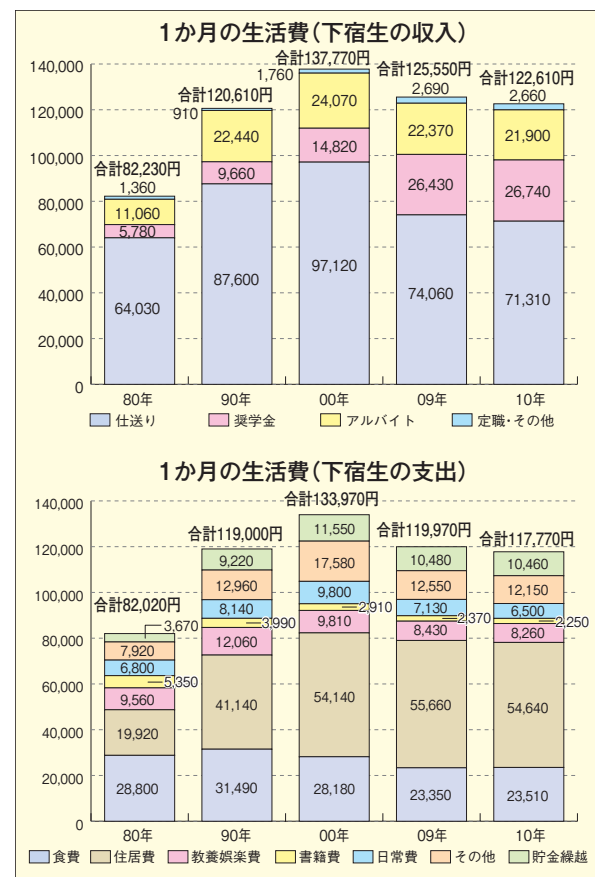
- 収入合計は59,170円で09年から▲1,130円(▲1.9%)。奨学金+760円(+6.8%)と定職+180円(+120.0%)で増加した以外は、アルバイト▲1,130円(▲3.7%)、小遣い▲370円(▲2.3%)、その他▲570円(▲25.9%)は減少している。
- 支出合計は57,890円で09年から+620円(+1.1%)。貯金繰越15,770円が09年から+1,400円(+9.7%)増加のほか交通費が+110円(+1.1%)、食費、書籍費、勉強費も増加した。
- 09年から奨学金が760円増加し11,970円に。自宅生収入の2割を超え、自宅生にとっても生活費の中の奨学金の役割は大きい。
- 自宅生は受給者の7割が奨学金を授業料などの学校納付金のために使っており、そのため貯金繰越の増加が続いている。

■ 下宿生

下宿生の仕送りが約3,000円減少。奨学金は金額、構成比とも最高に。

- 下宿生の収入合計は122,610円、09年より▲2,970円(▲2.4%)。奨学金+310円(+1.2%)、定職+60円(+16.2%)で増加したほかは、仕送り▲2,750円(▲3.7%)、アルバイト▲470円(▲2.1%)、その他▲90円(▲3.9%)は減少した。

- 支出も117,770円で、09年から▲2,200円(▲1.8%)。食費+160円(+0.7%)、交通費+60円(+1.9%)が増加、住居費▲1,020円(▲1.8%)、日常費▲630円(▲8.8%)、その他▲480円(▲15.8%)などが減少している。



仕送り額さらに下がり、1983年の水準に

～下宿生の仕送り5万円未満が25%を超え、4人に1人～

仕送りは4年連続減少し、71,310円。10年間で25,810円(26.6%)減り、1982年の69,380円、1983年72,200円並みの仕送り額となった。

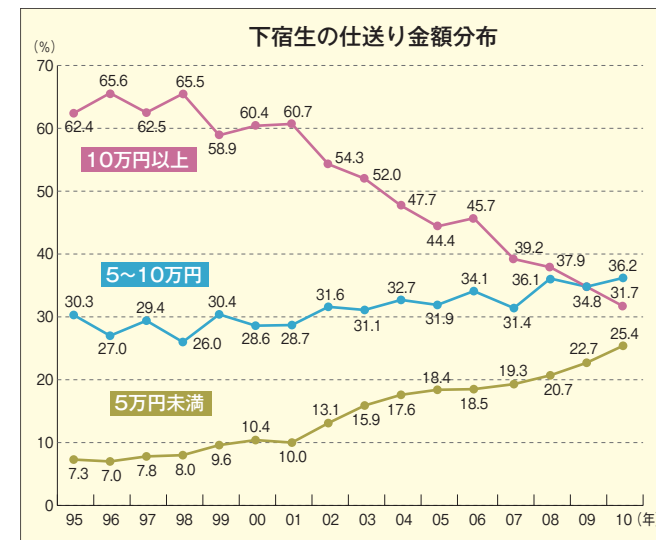
5万円未満層が初めて25%を超え4人に1人となった。また2000年には仕送り「10万円以上」が60%を超えていたが、この10年間で31.7%と激減している。

父親(2000年は「主な家計支持者」)の年収を10年前と比べると、500万円未満が23.9%から30.1%へ上昇し、1000万円以上が27.2%から20.4%へ減っている。

仕送り「0」の割合は10.5%と引き続き1割を超え

る。仕送り「0」の下宿生の収入は117,720円と下宿生平均より4,890円低く、その63.7%を奨学金が占める。また09年からアルバイト収入が2,160円、収入全体も3,290円減っており、さらに厳しい経済状態となっている。

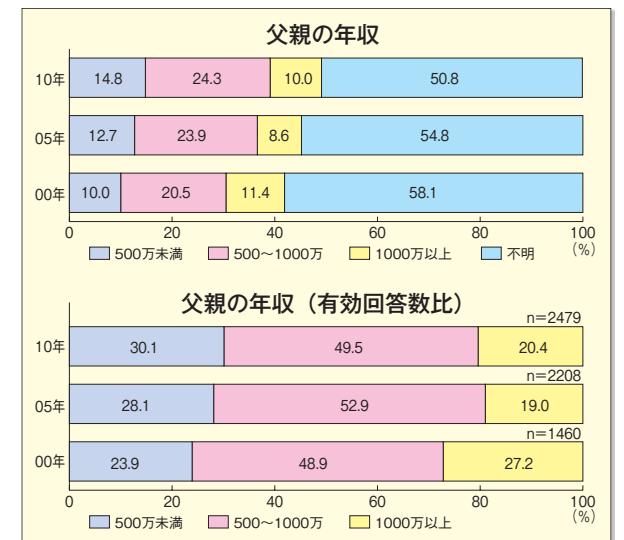
仕送りが減る一方で下宿生の奨学金は26,740円と09年から310円増加。受給者の平均受給金額は60,870円で09年より1,310円減少したが、収入に占める構成比は21.8%と0.7ポイント増え、奨学金に頼る収入構造に変化はない。



自由に使えるお金は77～78年並み。親世代より苦しい？

下宿生の住居費はこの30年間で34,730円(+174%)も増え、2010年は支出金額の46.4%を占めるまでになった。一方で、住居費を除いた生活費は63,130円と、30年前の1980年(62,100円)並みの金額である。

08年より下がり続けてきた食費は76年以降最低となった09年より160円増加したものの23,510円(1日当たり約783円)で、30年前より5,290円も低く、こ

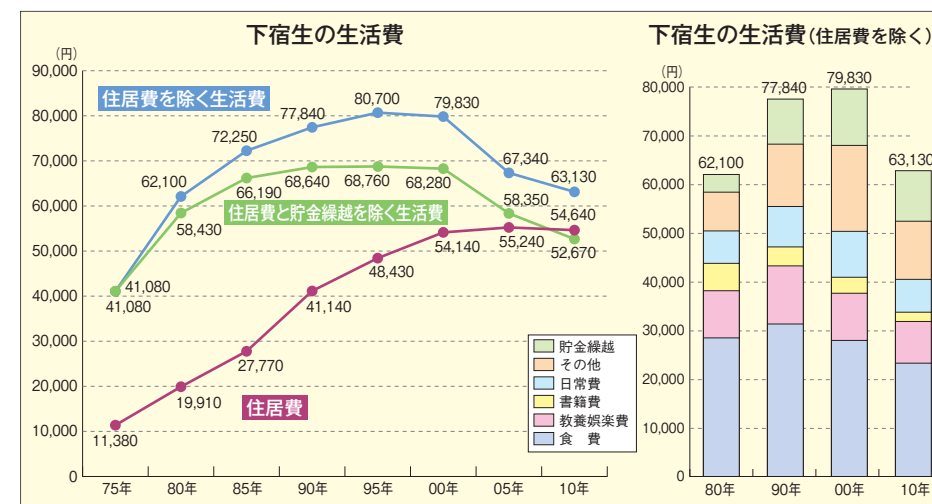


れ以上削れないという限界ぎりぎりの生活を強いられていることがうかがえる。

80年と比べ、食費のほかに書籍費が3,100円、教養娯楽費も1,300円減っている。増加しているのは貯金繰越が6,790円、交通費370円と、2000年以降項目に追加した電話代(それまでは「その他」で集計)4,830円で、それ以外の他の費目も減っている。

なお2010年の下宿生の貯金の目的は「予備の生活費」(30.4%)や「将来への蓄え」(27.2%)が高い。

住居費と貯金繰越を除く、下宿生が生活費として自由に使える費目の合計は52,670円と30年前より5,760円も低く、さらにさかのぼって、現在の大学生の親世代の学生時代か、それ以前の77年～78年並みの費用で生活していることになる。



就職活動は経済生活にも影響。地域間の差も大きい

下宿生の食費は23,510円で09年から160円増加しているが、4年生の650円増加が全体の平均金額を引き上げた。

4年生の中でも、この半年間に就職活動を行った人のうち、内定した人が25,342円、対してそれ以外が27,549円と高い。長引く就職活動で外食の機会も増え、食費が増えたと考えられる。(09年には同様の傾向は見られない)

就職活動の際にかかる費用には地域差が見られる。生活費以外で使われた半年間の特別費をみると、企業訪問などに交通費がかさむためか、4年生の就活費用が高い地域は北海道の93,300円、中国・四国82,700円、九州76,500円。低い地域は神戸38,900円、1都3県43,400円、北関東・甲信越49,400円が挙げられる。

資料：全国大学生生活協同組合連合会「学生生活実態調査の概要報告」<http://www.univcoop.or.jp/>

同窓会 提供講座『社会と人間』

講師の方に感想をお聞きしました！

4年目となる平成22年度提供講座は、法文学部同窓会の全面的支援の下、同窓会員を講師として右記の日程で開催されました。

今年は人気の「20代の先輩と語る」を2回設けたほか、「地域振興に働く」として農業関係の講師を招き、「愛大職員」「アナウンサー」の新しい分野を加えるなど、学生の要望を取り入れながら、より充実した講師陣で臨みました。

例年通り、後期の毎週木曜日・第5限目に開催し、全15回、28名の講師にご協力いただきました。今年も100名以上の学生が受講し盛況でした。平成23年2月3日(木)には、お手伝いをしていただいた現役学生に感謝状を贈呈し、講師陣も交えて校友会館内のカフェレストラン「セ・トリアン」で反省会と懇親会を行いました。



回	テ ー マ	担当日	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/7	小池 昭彦 山本 求	1970・文経 1979・文
2	20代の先輩と語る(1)	10/14	中山 裕之 嶋津 拓真	2008・総政 2008・総政
3	働く女性の現在	10/21	二宮加恵美 重松 直江	1997・文 1994・経
4	金融業で働く	10/28	岡田 禎之 難波 宜久	1965・人文 1987・法
5	自営業で働く	11/4	八束 誠二 土井 明人	1993・経 1998・経
6	教育の現場で働く	11/11	塚原 竜一 高垣 ルミ	1991・文 1989・文
7	小売業で働く	11/18	渡部 和司 石橋 牧	1974・法 1994・経
8	放送業界で働く	11/25	岩見 龍也 伊藤 秀美	1989・経 2007・総政
9	出版・報道業界で働く	12/2	金子 哲也 清原 浩之	2006・人文 1994・文
10	地域振興に働く	12/9	黒河 安徳 野本 学	1986・経 1996・法
11	愛大職員として働く	12/16	板橋 俊夫 吉田 一恵	1974・法 1979・法
12	アナウンサーとして働く	1/13	岡田 千春 後藤 珠希	2006・総政 2006・総政
13	20代の先輩と語る(2)	1/20	遠藤 学 白石 昌弘	2004・人文 2008・総政
14	組織と人間	1/27	渡部 浩三	2008・修士
15	まとめ	2/3	水口 晃	1979・法

平成23年度のお知らせ

8月時点で決定しているスケジュールは下記の通りです。

回	担当日	テ ー マ	回	担当日	テ ー マ
1	10/6	ガイダンス	9	12/8	出版・報道業界で働く
2	10/13	教育の現場で働く	10	12/15	公務員として働く
3	10/20	警察署長と語る	11	12/22	愛媛農業振興に働く
4	10/27	働く女性の現在	12	1/12	創業・システム開発(IT)への挑戦
5	11/10	証券業界で働く	13	1/19	愛大職員として働く
6	11/17	小売業で働く	14	1/26	アナウンサーとして働く
7	11/24	金融業で働く	15	2/2	まとめ
8	12/1	20代の先輩と語る			

同窓会員の方は聴講無料です。詳細は法文学部学務チーム(TEL. 089-927-9220)までお問い合わせください。またホームページでもご覧いただけます。

第8回「放送業界で働く」講師

(株)日テレ・テクニカル・リソーシズ 岩見 龍也

放送の使命や “メディアリテラシー”伝えたい



今回の法文学部提供講座で「放送業」というテーマの講義をさせていただきました。提供講座は私含め卒業生による各講師が、それぞれ自らの職務経験に基づく職業感や人生観について語る事を通して、学生自身の将来への方向性や価値観形成に少しでも役立てる事が目的です。

私が担当した放送業は新卒採用が極めて少ない業界という事や、サブテーマとして「都会で働く」——即ち地元を離れて首都圏へ就職する、という事の意味合いも兼ねていましたので、講義内容に頭を悩ませました。純粋に放送業という身近なテレビの事を知ってもらいたい、そこから情報が氾濫する現代における“メディアリテラシー”についても伝えたい、更に放送局は東京(都会)にもあり、愛媛も含め地方行政区分ごとにローカル局がある。業務内容が同じとすれば、都会と地元(地方)では何が違うのか？ 課せられる使命や従事者の生活環境、そのあたりから話を進めてみました。

限られた時間の中で、①自分が伝えたいこと、②学生が知りたいこと、③提供講座が求めているもの、の整理に最も悩みました。おそらく講義を担当された方々はこの点に一番悩まれたと思います。

学生に伝えたい一心で講義を行いました。同時にこの提供講座を担当する事で、改めて自分の生き方や職業観を顧みる機会となり、また経験知を次の世代に継承する事の大切さも感じ、まして伝統ある愛大生に継承できることは、私にとってもこの上ない喜びと誇りになりました。(1989年 経卒)

第12回「アナウンサーとして働く」講師

NHK松山放送局キャスター 岡田 千春



この度は貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。

現在私はNHK松山放送局で、ニュース番組「いよイチ」のキャスターをしています。まだまだ社会人として未熟な私ですが、自分なりに仕事について感じていることを率直にお話ししました。

「自分」について話すのはどこか恥ずかしく緊張しましたが、学生のみなさんは一生懸命聞いてくれました。また講義の後は、「どんな発声練習をしているか」「鼻濁音のコツは？」といった実践的な質問が飛び出し、感心してしまいました。



一番うれしかったのは、キャスターを目指しているという学生さんと出会えたことです。今回私は、仕事のやりがいや楽しさだけでなく、厳しい部分も“ぶっちゃけ”しましたが、彼女はやっぱりキャスターになることが夢だと話してくれました。働き始めたころの新鮮な気持ちがよみがえりました。働けるということに、日々感謝しないとはいけませんね。教えるというよりも逆に教えられてしまいました。

無限の可能性を秘めた学生さんたちですから、これから将来について迷うこともあると思います。講義が少しでもヒントになれば幸いです。

(2006年 総政卒)

白楊会館の残余財産を愛媛大学に寄付

同窓会連合会の支援以来、各学部同窓会の役員が理事として財白楊会館の運営にかかわり、その解散後、清算を終え、2011年5月23日(月) 午前10時30分から、新しく完成した校友会館2階の「白楊の間」で愛媛大学学長に寄付する儀式が行われました。校友会館に掲げられている「白楊の間」の由来を右記にご紹介します。



柳澤愛媛大学長に寄付の目録を手渡す白楊会館の兵頭理事長

「白楊の間」の由来

「白楊の間」は、愛媛県女子師範学校の同窓会「白楊会」に由来する。昭和9年、会員の浄財により、女子師範学校の門前に「白楊会館」を建設し、会員の研修及び親睦・宿泊施設として活用してきた。

戦後の学制改革により、県下の師範学校を統合して愛媛大学教育学部が設立された。これを受けて各師範学校同窓会も大同団結し教育学部同窓会として再出発したが、母校なき「白楊会」は、昭和41年、土地・建物などの基本財産を守るため、「財団法人白楊会館」を設立し、女性の地位向上を目的に独自の活動をしてきた。しかし、活動拠点の白楊会館は老朽化に加え、平成3年の台風により、壊滅的な被害を受け、建物の維持管理はもとより財団法人としての活動を継続することが困難となり、愛媛大学同窓会連合会の支援を仰ぐこととなった。

財団法人白楊会館は、老朽化した白楊会館を売却し、新たな活動拠点となる会館の建設を目指したが、公益法人制度改革に伴う法律制定により、新公益法人への移行が困難な状況となったことから計画を断念し、折しも愛媛大学が開学60周年記念事業として「愛媛大学校友会館」建設を計画していたので、解散による残余財産を会館建設に寄付することとした。愛媛大学は、平成22年3月に完成した校友会館の一室を「白楊の間」とし、財団法人白楊会館の女子教育への思いを末長く継承することとした。

愛大ショップえみか



昨年4月22日にオープンした「愛大ショップえみか」が、一周年を迎えました。

えみかは、学生はもちろんのこと、OB・OGや地域の方々も来店される店となっています。

昨年末からえみかオリジナルグッズも続々と発売され、オリジナルキャラクター「えみか」も今流行の「ゆるキャラ」として学生に人気です。

店舗前のえみか人形は、正時になると学歌が流れ、回転します！

商品の人気ベスト3は、**1位 愛大ロール**(附属農場で作られた温州みかんを原料に使用)、**2位 純米酒『媛の酒』**(附属農場で生産された無農薬米『安心米(あんしんまい)』を原料に使用)、**3位 伊予柑マーマレード**(附属農場で作られた伊予柑を原料に使用)です。

『媛の酒』の原料である無農薬米『安心米』は、お米自体も商品として売られており、そのおいしさとモチモチした食感に「もうこれ以外は食べられない！」という固定ファンもついているそうです。

えみかの店員さんお薦めは『媛の酒』。通販も受け付けているので、「同窓会報を見た」と伝えてもらえれば、2011年10月末日まで『媛の酒』のご注文に限り、送料無料で。ぜひご注文を！



マスコットキャラクター「えみか」
愛媛大学の頭文字「e」とみかんを組み合わせたもの。遠くを見つめる澄んだまなざしと穏やかな表情は、純粋で素朴な若者の豊かな将来性を示しているそうです。

INFORMATION
営業時間/平日8:00～19:00 土曜日11:30～14:00
定休日/日曜日・祝日
駐車場/有(9台)
お問い合わせ先/TEL089-922-0055

大学内



愛大ロール (1本1,050円、1カット210円)
附属農場で作った温州みかんをジュースにし、生地とクリームに使っています。素材の良さとハーモニーにこだわった自慢のロールケーキです。切り口が愛媛大学の「e」になっています。



安心米
キヌヒカリ・松山三井・あきたこまち (2kg: 1,050円) (昨年の価格です)
太陽と大地の恵みを受けて栽培、環境保全型農業プロジェクト研究の中で開発されたクローバーによる窒素固定と養分循環技術を活用しています。



えみかヴァイツェン・ビール
誕生記念価格350円 通常価格500円 (330ml)
愛媛大学無細胞生命科学工学研究センターで使用する愛媛県産小麦を加えて造ったビール。学生がラベルをデザインし、仕込みから瓶詰めまでを手伝いました。風味豊かな香りと苦みの少ない柔らかな味わいが特徴です。



媛の酒 (箱なし1,470円、箱入り1,575円)
附属農場において無農薬・有機肥料で栽培した「安心米(松山三井)」だけを使い、学生が稲刈り・仕込み・ビン詰めを手伝った手作りのお酒です。
オリジナルデザインの「みかんの木の器3個セット(3,780円)」は媛の酒(箱入り)とのセットにすると5,250円。



伊予柑マーマレード
(150g:400円、300g:700円)
附属農場でとれた無農薬の伊予柑を使用しています。

愛大どらやき
(1個126円、箱入り700円)
愛大ブランドとしては一番古いそうです。



施設紹介

校友会館にあるイタリアンレストラン「セ・トリアン」にランチを食べに行ってきました！

ランチ(11:30～14:00)は週替わりでパスタ、カレー(トマト風味)、カルネ(肉)、ペッシェ(魚)の4種類が用意されています。サラダとスープがセットになって580円～と値段もリーズナブルです。大学時代を思い出しながら、東京都内の有名レストランでシェフを勤めていたシェフ手作りの美味しいランチを味わってみてはいかがでしょうか。パーティやレセプションの貸切予約も可能なので、同窓会や同期会などにもいいですね。



カルネ セ・トリアンセット 850円
(チキンカツのピリ辛トマトソース)
ハーフパスタ・パン・サラダ・スープ付



パスタセット 580円
(ほうれん草と生ベーコンのスパゲッティー)
サラダ・スープ付

※値段は取材時のものです。

セ・トリアン Se·tolian



食材はなるべく国産のものを使っているとか。14:00～17:00までは混雑していないそうなので、カフェタイムにシェフ自慢のアイスティラミスを召し上がってみては？

シェフの
宮寺昇さん



INFORMATION
営業時間/平日11:30～21:00 土曜日11:30～14:30
(ラストオーダーは閉店30分前)

定休日/日曜日・祝日
駐車場/愛大ショップえみかの駐車場を使えます
お問い合わせ先/TEL089-924-2503
<http://www.ehimedas.com>

HPにて
メニュー紹介
しています

営業時間の確認は
下のQRコードで！



同期会やゼミの会合に関しての 会員名簿の情報提供について

同期会やゼミの会合を実施するため、同期生やゼミ生の照会の申し出があります。同窓生間の親睦をはかる目的ですので協力したいと思います。個人情報保護の問題もあります。そこで、会員名簿のうち「氏名」及び「住所」の2項目に限り、情報を提供することにしました。なお、提供に当たっては同期会やゼミの会合の内容を精査し、他の目的に使用しない誓約書を求めます。

来年1月1日から開始しますが、このような情報提供を希望されない方は下記事務局までご連絡下さい。ご連絡があれば、一切提供いたしません。

愛媛大学法文学部同窓会事務局
〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376 FAX 089-917-6476
E-mail aidai-houbun-dosokai@sings.jp
HP <http://koyu.ehime-u.jp/houbun/blog/>

愛媛大学法文学部同窓会名簿の情報提供についての規程

- 第1条 (目的)**
この規程は、愛媛大学法文学部同窓会の管理する会員名簿の情報に関して、会員への提供について定める。
- 第2条 (同期会のための情報提供)**
1 会員から「同期会及びゼミの会合」を実施するために同期生及びゼミ生の氏名及び住所の照会の申し出があったときは、会員名簿の「氏名及び住所」に限り、情報を提供する。ただし、次条の停止の申し出がある会員については除外する。
2 会員は、照会の申し出にあたり、次の事項を届け、会の案内以外に使用しない旨の誓約書を提出する。
① 会の参加対象者
② 会の予定日時及び場所
3 会員は、会の結果内容を同窓会会報に提供する。
- 第3条 (情報提供の停止)**
会員から情報提供の停止の申し出があったときは、当該会員の情報は提供しない。
- 第4条 (会員の義務)**
会員は、提供を受けた情報を管理し、会の案内以外に使用してはならない。
- (附 則)**
本規程は、平成23年2月18日の理事会によって決定された。
情報提供の実施は、平成24年1月1日とする。

関東支部 [東京章光会]

第47回総会開催



平成23年度の東京章光会総会（第47回）は梅雨明け宣言当日の厳しい暑さの中、7月9日(土)に「愛媛大学サテライトオフィス東京」のあるキャンパスインノベーションセンターにて開催されました。

本年3月に東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災の影響で、関東地方でも交通機関をはじめ大混乱となり、その後の計画停電、夏場の電力需要のピークに向けた節電対策等で様々な対応がなされている中での開催となりました。

東京章光会におきましても、3月12日に予定してありました総会準備のための拡大役員会も延期を余儀なくされ、また、総会が近づく頃からは大手企業を中心とした出勤日の土日シフト等も発表されるに至り、はたしてちゃんと開催できるのかと不安を抱えながら準備を進めて参りました。

総会当日は、松山より法文学部長の赤間道夫教授、牧秀明教授、同窓会本部・鳥生事務局長、また同窓会各支部、他学部同窓会東京支部より多数のご来賓にご出席いただき、約60名の出席者をもって開催することができました。

総会に引き続き、昭和34年ご卒業の井上哲男氏を講師に迎え、「人口減少と日本経済」と題した講演会を開催。地震、原子力発電所等の話題も交えたお話で参加者の皆様も熱心に聴講されておられました。

続いて開催された懇親会では、赤間学部長による大学の近況紹介、牧教授による乾杯のご発声等の後、懇親に入りました。途中、愛媛県東京事務所の高木所長のご挨拶、坊ちゃんに扮した松山市東京事務所の川崎氏によるPRを挟みながら、およそ1時間半にわたり懇談いたしました。

特に今回は卒業して数年の若い会員も誘い合わせて参加してくれ、20代半ばから80代までの幅広い年齢層が和やかにかつ賑やかに懇談する場となりましたことは有意義であったと思っております。

今後の役員会等で反省点も検証しつつ、また、同窓会本部、各支部、他学部同窓会との連携も保ちながら、来年また多数の会員に参加いただき楽しく交流していただけるよう頑張っていきたいと思っております。

東京章光会 事務局 森脇孝典（昭和54年卒）

広島支部

広島支部の第6回同窓会は、平成22年10月23日(土)クルージング船『銀河』にて37名の参加者で開催され、広島宇品港から宮島鳥居沖と広島湾を巡るナイトクルージングを行いました。

当日は、同窓会本部から水口晃会長が、東京章光会から森脇孝典事務局長が、大学からは法文学部総合政策学科本田博利教授のご参加をいただきました。

まず、谷井繁氏によるドラの合図で広島宇品港を出航。岡田支部長の挨拶と水口会長の乾杯の音頭により会は始まり、参加者の紹介や本田先生から愛媛大学の変容についてお話しいたいたり、事務局から今回ご都合で参加できなかった同窓生のメッセージを配布させていただいたりして、とても楽しい会となりました。

宮島鳥居沖でのデッキタイムの後は、篠笛フルート奏者の梶川純司さんの篠笛の音に耳を傾けながらおよそ2時間にわたる懇親会を過ごしました。

最後の締めくくりでは、応援団出身の道田祥隆氏のエールに続いて「愛媛大学学歌」、逍遙歌「若葉の古城」、「三光寮を歌う」を声高らかに歌い上げ、名残を惜しみつつ、来年もまたお会いしましょうと散会となりました。世代を超えた交流を通じて、より同窓会の意義を高めていただいたように思います。

今後も、楽しい会にすべく臨んでまいりますので、より多くの方のご参加をお願いしたいと思います。次回は平成23年11月5日(土)11時より前回と同様クルージング船『銀河』にて、宮島や広島湾のランチクルーズをしながら開催する予定です。



役 員

顧問	竹本 義昌（昭和33年文理学部 人文乙卒）
顧問	楠本 淳（昭和35年文理学部 人文乙卒）
支部長	岡田 禎之（昭和40年文理学部 人文乙卒）
事務局	難波 宜久（昭和62年法文学部 法学 卒）
幹 事	村上 道機（昭和43年文理学部 人文乙卒）
幹 事	藤田 典子（昭和53年法文学部 法学 卒）

（連絡先）難波携帯 090-7777-6671

四国支部

第5回総会開催

日 時：2010年11月12日(金) 18:00～

場 所：ピュアフル松山(旧勤労会館) 5F 白鷺の間

講 演：「佐世保重工業に見る企業家論の検証
～理論と現実の狭間にて～」

講 師：渡部浩三氏（元佐世保重工業常務取締役）
講師が平成20年愛媛大学に出した修士論文を題材に講演会を開催しました。



総会後の記念撮影風景 本部より同窓会旗2枚を頂きました

同窓会お花見の報告

日 時：2011年4月2日(土)

場 所：重要文化財 渡部家（松山市東方町）

四国支部第6回総会の案内

日 時：2011年11月11日(金) 18:00～

※愛媛大学学生祭の開催予定日

場 所：ピュアフル松山(旧勤労会館) 4F 孔雀の間
松山市宮田町132 TEL 089-945-6011

※駐車場はありません。JR松山駅より徒歩3分、愛媛大学より環状線で約15分

会 費：5,000円（予定）

出 欠：同封の返信用葉書で10月末日までをお願いします。

※ビンゴゲーム他予定（景品の提供受け付けます）

【総会予定】

18:00 開場 18:20 ミニ講演会

演 題：「財政の現状と税制改正の方向性」

講 師：西田和真氏（税理士、元税務署長）

1973年に法文学部を卒業。税務署長を定年まで勤められた後、郷里の伊予市にて税理士事務所を開業されました。

資料予定 「税制について考えてみよう」(財務省発行)

〒799-3122 伊予市市場469-1

Tel. 089-994-5173 Fax. 994-5174

※様々なお話を聞くと共に複雑な税金に関する質問を受け付けます。

18:50 報告事項・協議事項等

19:00 懇親会 乾杯・来賓挨拶・イベント・抽選会等

20:50 終了予定

第2回同窓会お花見の案内（予定）

日 時：2012年4月7日(土) 13:00頃～

場 所：ホテル奥道後
松山市末町 Tel.089-977-1111

会 費：3,000円（予定）

出 欠：同窓会報の参加通知葉書で10月末日までをお願いします。

集 合：現地 ※参加人数により送迎バス検討中。
開花状況等により変更になる場合があります。
希望者に3月25日ごろ別途案内予定

四国支部事務局連絡先（問い合わせ先）

〒790-0047 松山市余戸南1-6-26(玉井方)

電話089-973-5048

副支部長 玉井周平 携帯090-8973-7650

E-mail tousui78@yahoo.co.jp

関西支部 [にきたつ会]

平成23年度総会

日 時：平成23年6月25日(土) 11:00～14:00

場 所：ラマダホテル大阪 大阪市北区豊崎3-16-19

総会には、支部会員36名に加えて同窓会本部から小池昭彦副会長、鳥生勉歳事務局長、四国支部から宇都宮真由美支部長、白井瞳氏（経理担当）、広島支部から岡田禎之支部長、関東支部（東京章光会）から荒木雅弘副会長と、6名のご来賓の方々のご参加をいただき、例年にも増して賑やかな会合となりました。

岡本副支部長の名調子の司会により、総会、講演会、懇親会という流れで3時間がアッという間に経過しました。総会の冒頭で、直前に体調を崩して急逝された幹事・多富弘之氏（昭和37経）のご冥福を祈り、一同で黙禱を捧げました。多富氏は、にきたつ会創設の立役者の一人であり、長期にわたり同窓会活動に尽力された方でした。

和田支部長のあいさつ、事務局担当の業務・会計報告、来賓の方々のご挨拶に続き、本日のメインイベントである講演会に移りました。講師は、会員(平成7・経)の税理士・居林順二氏で、「震災関連の税制と税制改正の行方について」のテーマで熱弁を振るわれました。メディア等でも日々報じられている最新のホットな内容を、専門家の立場からポイントを絞って分かりやすく説明していただき、有意義なひと時を過ごしました。

最後に現役愛大生の気分になり愛媛大学学歌と「三光寮を歌う」を声高らかに斉唱した後、集合記念写真を撮影して散会となりました。

（連絡先）事務局長 細川 0729-38-0989



同期会を開催しました

文甲39会 5年ぶりに開催

昭和43年3月文理学部人文学科甲卒業の同期会が平成22年5月30日に道後の宝荘で開催された。還暦の同期会に続き、中心的役割を果たしたのは富岡氏で、友近（越智）・浜田（大野）・高山（原）さんらの協力で2度の準備会で細案を練って実施となった。

1次会集合は愛大正門前で、開学60周年記念新施設の「愛大ミュージアム」を見学し、学内を散策後、懐かしいローブウェイ街を通り、2次会（昼食）会場のイヨテツ会館へ（18名）。昼食後、市内電車に乗り道後公園前で下車し、湯築城跡公園を散策しながら3次会会場の子規記念博物館へ。ここでは同期の竹田美喜館長の「坂の上の雲 裏話」の特別講演を拝聴した後、館内を見学（23名）。その後、4次会（宴会）会場となるホテル宝荘へ移動。最終参加者は25名。関東・中部から4名、近畿から3名、中国地方から5名の県外組12名と県内から13名。同期60名の内6名の住所不明を除き、46名の消息は富岡氏の努力で判明している。残念なのは物故者が8人（内6名は女性）もいるということ。

物故者への黙禱に始まる4時間余に及ぶ宴会の後、16

名は宝荘に宿泊し、一晚中語り明かし、なるべく近い再会を期して、翌朝、それぞれの生活地に帰っていった。

（文責・法文学部同窓会理事 穂岡）



（左から）
3列目：横間、秋山、的場、桧田、穂岡、向井、村上、森岡、上甲、夏井
2列目：浜田、高山、横井、森、小野、確井、友近、三宅
1列目：中林、竹田、村上、大龍、石川、緒方、富岡

1975年文学科入学同窓会開催

去る2010年12月18日土曜日の午後、「愛媛大学入学35周年文学科同窓会」の案内に、県内外から17名が法文学部校舎前へ集合しました。



前年の法文学部同窓会50周年総会で、同期入学の法文学部同窓会副会長山本君と卒業以来30年振りに再会し、クラス会を開こうか、という話になりました。1975年文学科入学生は66名と、現在の入学定員から見ると半数以下の少人数で、2回生の後期に各専攻に分かれるまでの1年半、必修の語学を同じ教室で学び、教養部の選択科目で顔をあわせることも多く、同期入学生がクラスメイトという雰囲気がありました。そして2010年の9月、現在愛媛大学職員になっている菊川君も加わって同窓会の準備を始め、10月下旬案内状を発送しました。

さて、当日は法文学部校舎前からキャンパスをゆるゆると散策し、開館1周年を迎えたばかりの愛媛大学ミュージアム（もとの教養部の校舎内）と改装されてバリアフリーになっている明るい図書館内部を見学しました。大学内の新しい施設設備もさることながら、30年前と現在のキャン

パス風景の違いに驚いた参加者も多かったようです。私たちの学生時代にはまだ若木だった正面玄関前や教養部前の木々が太く高くなり、体育の授業で使われていた運動場は工学部とメディアセンターの建物で埋まっています。

散策後は校友会館内のイタリアンレストラン「セ・トリアン」を会場にして懇親会を行いました。倒れそうな木造の学食のお世話になった世代にとってはまさに隔世の感ありの学内施設です。今回の同窓会の企画、会場設定の山本君の発起人挨拶、事務全般を担当の菊川君の乾杯の発声の後、それぞれの近況報告に移り2時間余、出席者一同、和やかに飲食、歓談しました。川上君と鶴岡（現：松浦）さんが保管していた入学後すぐに行われた入学コンパや、卒業謝恩会の写真と1回生時のクラス名簿（藤野君の手書き）のコピーが用意されていて、みな照れくさくも懐かしく、学生時代に思いを馳せたのでした。

その後、二番町の飲食店に移動しての2次会、3次会と、話は尽きませんでした。夜も更け散会となりました。

1975年文学科入学生の皆さん、また何年後かに集まりましょう。（1979（昭和54）年 文学科卒 安藤あさみ）



愛媛大学法文学部同窓会理事会報告

2010年度 第2回(通算第51回)理事会

新しい校友会館で2回目の理事会が開催されました。1階のレストラン「セトリアン」からイタリア料理を運んで親睦をはかりました。

日 時：2010年10月22日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：28名

【報告事項】

1. 提供講座スタート
7月17日(出) 愛媛大学サテライトオフィス(港区芝浦)
関西支部(にきたつ会)
9月12日(日) 阪急グランドビル「グランド白楽天」
広島支部 10月23日(出) 「クルージング船銀河」(予定)
四国支部 11月12日(金) ビュアフル松山(松山市宮田町)(予定)
4. 経理報告
9月末現在、通帳・領収書と現金は一致しています。
5. 同窓会長会 2010年6月30日(水) 国際ホテル
6. 愛媛大学との懇親会 2010年7月16日(金) 伊予鉄会館

【審議事項】

1. 提供講座 講師旅費について
遠方の方の交通費を会の旅費規定に則って今年分から支給したいと考え、提案します。 → 承認されました。
2. 支部総会 旅費改定について
経理規約に、「ただし、往復交通費が規定を超える場合は実費を支給する」の一文を追加することを提案します。 → 承認されました。
3. メールによる理事会開催のお知らせについて
→ 希望の理事にはメールで送ることになりました。
4. 同窓会名簿データの利用方法について
→ 水口会長から提案があり、データの利用規約案を次の理事会に提案することになりました。

2010年度 第3回(通算第52回)理事会

今回は名簿のほか特に審議事項もなく、親睦をメインとする理事会となりました。

日 時：2011年2月18日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：24名

【報告事項】

1. 提供講座終了
司会を担当してくれた学生(7名)への感謝状贈呈式、反省会、懇親会を行いました。講師の方にも呼びかけて、総勢30名(講師16名、学生4名、両学部長、担当教官2名、総務2名、同窓会3名)の参加をいただき、盛大な懇親会となりました。
2. 支部総会報告
各支部総会は第2回報告と同じです。
支部長会 2010年11月12日(金) 校友会館ミーティングルーム
3. 愛媛大学同窓会長会 2011年1月26日(水) 松山ワシントンホテル
4. 名簿データ構築と修正
管理ソフトとして「筆まめ」を導入しデータを整備しました。50周年記念事業で行った往復はがきによる住所等の確認の結果、名簿の精度が格段に向上しました。
5. 経理報告
1月末現在、通帳・領収書と現金は一致しています。
6. 「同窓会報 第15号」編集委員会スタート
7. 理事会案内のメール送付について

【審議事項】

1. 名簿データの利用規約について
→ 水口会長が、「愛媛大学法文学部同窓会名簿の会員への情報提供についての規程案」を説明し、一部変更して承認されるとともに、今後、支部活動および学部・大学・校友会との連携を図るための環境作りを進めることを確認しました。

2011年度 第1回(通算第53回)理事会

赤間総合政策系学部長、黒木人文系学部長、白石事務課長のご挨拶をいただきました。

日 時：2011年7月1日(金) 18:00～21:00

場 所：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：28名

【報告事項】

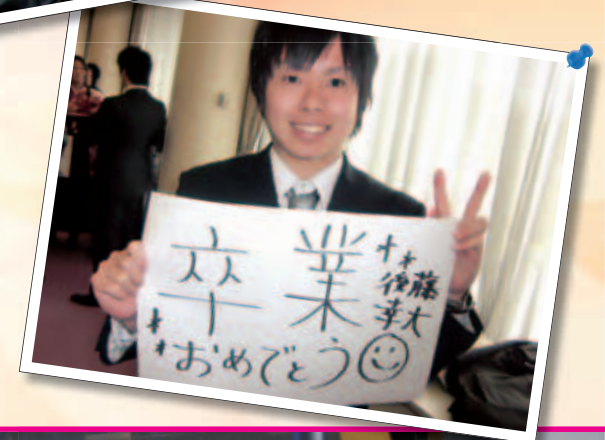
1. 2011年度・法文学部同窓会提供講座「社会と人間」開講
2011年10月6日(木)から2012年2月2日(木)までの日程です。
2. 同窓会員 会員数報告
【2011年3月末日 卒業生】
総合政策学科 昼間主293名 夜間主 85名 計378名 院生14名
人文学科 昼間主124名 夜間主 47名 計171名 院生 8名
法文学部合計 昼間主417名 夜間主132名 計549名 院生22名
【総 計】
文理学部19年(1953年～1971年) 2,222名
法文学部39年(1972年～2011年) 15,645名
合 計 17,867名
【2011年4月 法文学部入学者数】
総合政策学科 昼間主288名 夜間主61名 計349名
人文学科 昼間主139名 夜間主52名 計191名
法文学部 計540名
3. 支部総会報告(いずれも2011年開催)
関東支部(東京章光会)(予定)
7月9日(出) 愛媛大学サテライトオフィス(港区芝浦)
関西支部(にきたつ会) 6月25日(出) ラマダホテル大阪
広島支部(予 定) 11月5日(出) クルージング船「銀河」
四国支部(予 定) 11月11日(金) ビュアフル松山(松山市宮田町)
経理担当者会議 6月25日(出) ラマダホテル大阪
4. 愛媛大学同窓会長会・校友会理事会報告
愛媛大学同窓会長会 2011年6月29日(水) 松山ワシントンホテル
愛媛大学校友会理事会 2011年6月24日(金) 校友会館
5. 2011年・第15号同窓会報の進捗状況

【審議事項】

1. 2012年度法文学部同窓会寄付科目・提供講座の開講について
→ 寄付科目(4コマ)の非常勤講師4人分(604,000円)の寄付と、提供講座の開催が承認されました。
2. 10年度決算の承認
収入572万1,294円に対し、支出804万4,676円となり、▲232万3,382円の赤字となりました。収入は、新入生会費が556万円、利子収入が16万1,294円、計572万1,294円です。田村監事と高谷監事により、5月31日(火)に監査を行いました。 → 承認されました。
3. 11年度の事業計画
1) 支部活動の活性化を重視し、財政のあり方と支援内容について検討し、充実を図ります。
2) 同窓会名簿の充実をはかるとともに活用方法を検討します。
3) 同窓会報は、同窓会員への大学紹介や会員相互の情報交流の場として、毎年1回の発行を行います。また、ホームページの充実をはかります。
4) 「提供講座」「寄付科目」だけでなく、法文学部からの要請に応じて「教育・学生支援事業」への参加・参画を進めます。現役学生とのつながりを広げます。
5) 日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事会運営に努めます。 → 承認されました。
4. 11年度予算の承認
収入は556万円、支出は約790万円で予算化します。約234万円の赤字です。収入では、新入生540人で540万円に利子収入16万円を加えて556万円の収入が見込めます。支出では、会報の増ページに伴って印刷費が約25万円、支部代表交通旅費(経理担当者会議分)に12万円を増額することと機器購入費が約20万円減っている以外は、昨年実績にほぼ準じています。 → 承認されました。
5. 支部への援助金の交付、名簿データの提供について
年度初めに各支部10万円を支給したいと考えます。また、名簿データの一元化に取り組み、とりあえず、広島支部の総会準備のために本部のデータを提供し、問題点を検討したいと思います。 → 承認されました。
6. 提供講座講義内容の記録、懇親会について
講師の方の承諾を得たうえで講義内容を録音し、要約を保存したいと考えます。また、提供講座終了後の懇親会はこの数年開催していない「OB・OGフェスタ」の代わりとして、学生にも参加してもらう立食会にしたいと思います。 → 三役会議で検討後、次回理事会で再提案となりました。
7. 宮崎理事退任について → 承認されました。
8. 東日本大震災支援について → 継続審議となりました。

Graduation Memories

平成22年度 法文学部卒業記念祝賀会 (2011.3.24)

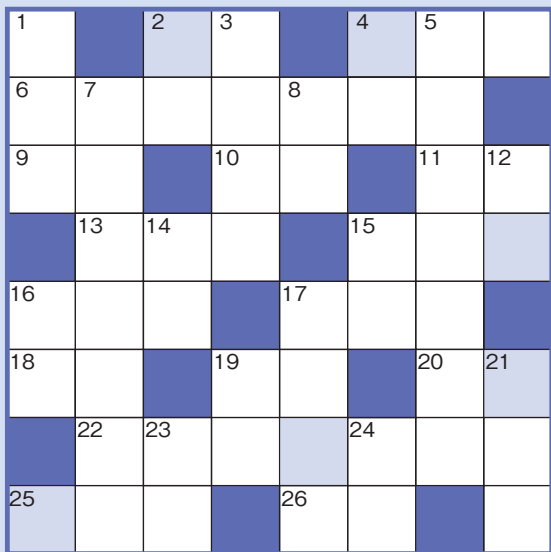


総合政策学科



人文学科

クロスワードパズルを完成させ、色つきマスの文字を並べ替え、あるスポーツに関係の深い人物の名前にしてください。



(出題：H16卒・矢野彰大氏)

●ヨコのかぎ

- ② 不純物をこしとる
- ④ 団体旅行
- ⑥ インテルでプレーした愛媛県出身サイドバック
- ⑨ 願い事を書いて社に
- ⑩ お寿司についてくる生麦
- ⑪ チベットの都市。解凍ソフトの名前にも
- ⑬ 教訓を含む物語
- ⑮ 宗家とよばれることも
- ⑯ 正岡子規最後の句の題材
- ⑰ 立ち技打撃系武道
- ⑱ 昔の愛媛県
- ⑲ 経験を積むと、これについてくる?
- ⑳ ○○鎌倉!
- ㉑ 子供にランドセルを贈った人のリングネーム
- ㉒ 動物由来の接着剤
- ㉓ ラビスラズリ

応募方法

同封の応募ハガキに正解をご記入の上、**2011年12月15日**までに本会までお送りください。

賞品

図書カード1,000円分 20名

第14号パズルの答え

正解：ハナちゃん、はなちゃん



●タテのかぎ

- ① 重さを聞いてはいけません
- ② 数字を選ぶ宝くじ
- ③ 京都の川の一つ
- ④ お客さん、○○ですねー
- ⑤ 今年退役のスペースシャトル
- ⑦ フロッグマウス
- ⑧ リリー
- ⑫ 飲んでも飲まれるな
- ⑬ サラブレッドもこの一種
- ⑭ 大袈裟な嘘
- ⑮ 隣地との境に
- ⑯ 2002年サッカーW杯開催国
- ⑰ 甲賀と並んで、忍者で有名
- ⑲ 吉祥果
- ㉑ 集中すれば、これに矢が刺さることも?
- ㉒ アフリカの共和国。首都はバマコ

パズルについて

矢野彰大

いつもパズルを解いてくださってありがとうございます。パズルは、基本的に、分野を広げて作っています。年代などによって難しい問題が違ってきますので、誰かと一緒に解いてもらうのもいいかもしれません。尊敬するパズル作家は、パズル姫こと角田美里さんです。

主なリクエスト

- 現在の講義の内容・タイトル
- 他の学部の情報も知りたい
- 現在のサークル・部活の状況
- 卒業論文を載せてみては
- 松山市内の様子(時代による変遷)
- 生協の様子(販売品など)
- 学生の活動
- 先生の特集
- パズルの出題者・矢野君の近況インタビュー
- 大学の「今」を知れるような内容
- 県外に就職した会員を紹介(県別、職種別で)

感想

●とてもおもしろいです。●明るい紙面で楽しく読めます。いい冊子だなあと感じました。●写真が多く、愛だが変わっていく様子が視覚的にも実感できるので楽しいです。●もっとボリュームがあってもいいのでは。●ハナちゃんの元気そうな写真がよかったです。●ふっと忙しい日々を忘れ、昔を思い出して、また明日への活力になります。その他、お礼や励ましのお言葉を多数お寄せいただいています。ありがとうございました。

パズル等の解答にいただいた個人情報、同窓会事務局が適切に管理し、賞品の発送および名簿データの更新にのみ使用いたします。

【解答】

前回パズル当選者(敬称略)

解答者54人中、正解者54人

図書カード1,000円分 (20人)

上ノ山御杖(S37)、住友 恵次(S56)、岡本 秀志(S57)、樋掛 誠也(S58)
上田 浩士(S59)、藤野 洋子(S63)、相原まゆみ(H03)、門田 仁(H03)
清水 淳子(H05)、菊池 恵(H08)、黒井 右京(H10)、田村麻衣子(H11)
渡部 憲和(H11)、山下 禎子(H12)、岡田 愛美(H14)、八巻 法子(H16)
生田 美香(H17)、林 亜希子(H17)、中川 理恵(H18)、河野 陽(H20)

役に立った記事、面白かった記事ランキング

1位は「愛媛大学ミュージアム」(20人)、**2位**は「同窓会50周年記念特集」(6人)と「退職された教員の方々」(6人)、**4位**は「写真」(5)、以下、パズル(4)、卒業生から(3)、同窓会 提供講座 報告(2)、卒業記念祝賀会(1)、結婚相談事業(1)

【編集後記】

- 法文学部を卒業して38年目。早いもので、今年度末をもって定年退職となります。還暦と言えば、第二の人生の始まりです。健康に留意して、充実した余生を送りたいと思います。(久保)
- 今年の夏はダイエットに成功し、5キロ減。身も心も軽く、今年の後半も頑張ります。なお、卒業生の方々の近況や大学時代の思い出など、投稿をお待ちしています。(野寄)
- 卒業生からのコーナーを充実させていきたいです。原稿をお待ちしています。(小林)
- 今回で3回目となるインタビューをさせて頂き光栄でした。今回の号も魅力いっぱい! 皆さまからの反応が楽しみです。(後藤)
- 今回はいつになく一番に原稿を間に合わせて安穩としていましたが、結局写真や編集後記がいつものように最後になってしまいました。皆さんの奮闘で今回も力作ができました。(山本)
- 例年より8ページ増という「無謀」に挑みましたが、何とかかなるもので、発行日に間に合いました。“充実”の会報をご覧ください。(鳥生)
- 4月から片道12キロのジテツウ(除雨天)です。車通勤では見えなかった景色や風に出合えます。さてさて、いつまで続くのやら……。 (戒能)

発行 2011年9月
発行 愛媛大学法文学部同窓会
編集 愛媛大学法文学部同窓会編集委員会
事務局所在地 〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内
TEL 089-917-6376 FAX 089-917-6476
印刷 アマノ印刷